

## はじめに

「食」は命の源であり、また、健康で豊かな生活を送るために重要なものであります。しかし、健康や食を取り巻く社会環境の大きな変化や、食に関する価値観の多様化、また、感染症等の拡大などが、人々の意識や行動に変化をもたらすなど、予測が困難で急激に変化する時代の中、健全な食生活の実践が困難となる場面が増えてきています。これらの状況を踏まえ国の第4次食育推進基本計画では、「①生涯に通じた心身の健康を支える食育の推進」「②持続可能な食を支える食育の推進」「③新たな日常やデジタル化に対応した食育の推進」の3つを掲げております。

子どもの食生活や健康に関しては、朝食欠食や野菜不足など、偏った栄養摂取に代表されるような食習慣の乱れ、また、将来の生活習慣病が懸念される肥満や過度の痩身傾向などの課題があります。次世代を担う子どもの食育については、SDGsの考え方を踏まえ、学校、家庭、地域社会が連携して総合的に推進していく必要があります。

これまでも学校においては、給食の時間や教科等の時間を通じて食に関する指導を行ってきましたが、平成29年に公示された学習指導要領では、「学校における食育の推進」を総則に位置づけ、栄養教諭が中核となって学校給食を活用した食に関する指導を充実させるとともに、教科等横断的な視点に立ち、食に関する指導の全体計画と関連付けながら効果的に進めるよう留意することも明記されました。

本書はこれらを受け、更なる食育の推進と充実を図ることを目的に改訂いたしました。各学校では、本書を活用しながら子どもたちが食生活に対する正しい理解と望ましい食習慣を身に付けることができるよう、学校教育活動全体で食育の取組を充実させていただくとともに家庭や地域との連携を進め食育の一層の推進を図るようお願いします。

令和4年（2022年）3月

札幌市教育委員会

教育長 檜田英樹